広報
南国

編集発行
南国市広報委員会
電話（代表151番）
印刷所
川北印刷KK

広報は…………みんな
読むもの…………つくるもの

二代市長に池川氏
市議補選は岩原候補に栄冠

西村前市長の退陣にともない、昨年末の二十六日に行われた後任市長選挙は、共産党から三好徳之助氏＝日本共産党香長地区委員長＝革新系から大石稲氏＝県鍛造理事長＝池川滋寿氏(68)＝日章農協組合長＝の三氏が立候補し、市長の椅子を競ったが、三好、大石両候補を大きく引き放した池川氏が、結局二代市長に当選した。

また、岡林茂喬三議会議員の死亡により欠員となっていた、後免選挙区の議会議員補欠選挙も同時に行われ、岩原栄壽氏(55)＝農業＝北村保氏、今井成子さんの三氏により一議席を争った結果、岩原氏が元県議の北村氏や、今井氏を破ってその議席を確保した。

池川新市長
四日に初登庁

一月一日から就任した池川新市長は、ご用始めの四日午前十時に初登庁し、別館会議室に全職員を集め、自分は、これまで産業と経済方面にのみたづさわってきたもので、地方自治行政は初めてであり、かえって永年つとめているみなさん方が、よりくわしいと思う。自分もこれから研究し市の発展のために尽力してゆきたい。西村前市長につくしたより以上に努力し、協力してほしいと就任のあいさつをし市長の座についた。

写真は初登庁の池川新市長

本号の主な記事

（一面）
△2代市長に池川氏……………
△希望燃ゆる成人達……………
△来る人去る人……………
（二面）
△市長議長大いに語る新春放談
△国民年金法大巾に改正される
（三面）
△広報お年玉クイズ……………
△90年を経た戸籍制度…………
△市内あちこち……………
（四面）
△新年応募文芸……………
△綜合開発と茂久川……………

投票率の最高は87%
奈路投票所

全般的に低調をたどった今度の選挙で、投票率のもっとも高かったのは、八七、四%の第37投票区（奈路）、つづいて八四、九六%の第36投票区（八京）、八二、九八%の第33投票区（外山）で、最低は、第41投票区（定林寺）の五〇、四五%となっている。

スムースな開票
最低の投票率
市長選 市議補選

二回目の市長選挙と、後免選挙区の市議補欠選挙は、十二月二十六日午前七時から四十五カ所の投票所で行われ、午後六時に終了した。当日は投票日和の好天であったが、有権者にはさほどの熱があがらず、出足の悪い低調な選挙風景であった。

開票は、翌二十七日午前九時から後免、野田小学校で行われ、市長選は午後〇時十分に、つづいて、〇時三十分から市議補欠選の開票が行われ午後一時三十分に全部の開票を終了した。

なお、市長選の当日有権者総数は、二七、七三六人。投票総数一八、〇三八票、有効投票一七、五二九票、無効五〇九票で投票率六七・六七%また、市議補欠選の当日有権者総数は、一〇、五九七人。投票総数七、一一六票有効投票六、八二九票、無効二八七票、投票率は、六五・〇三%であった。無効票の多かったのは、市長、市議補欠選の同時投票のためのもので、なかには西村前市長の名も相当数みられた。

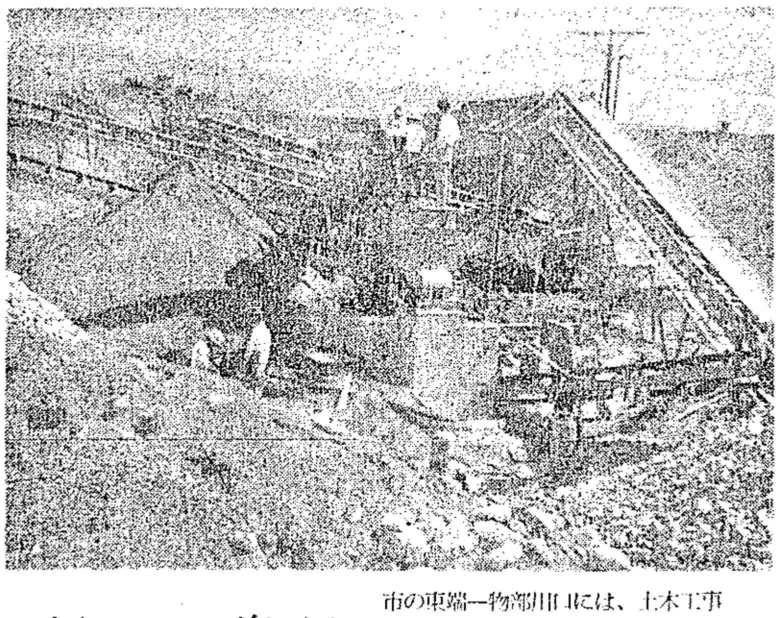
市長選の開票は、三好、大石両氏をおさえ池川氏が最初からリードを保ち、午前十一時頃には当選確実となった。最終得票数は池川滋寿氏一万四百七十票、大石稲氏六千百三票、三好徳之助氏九百五十六票であった。

市議補選では、三者ともせりあったが、今井氏、つづいて北村氏の票が次第に伸びず、最後に岩原栄壽氏が、北村氏を五百四十六票の差でおさえ、三千六十九票を確得当選した。

なお、投票紙の落書があとをたたず、今度の選挙にも相当みられた。

大石にみよしつきあて
おおいたや
池川下る、屋形船かな

というのはそのなかの一つ有権者の反省をのぞむ声が高い。



河口の資源

市の東端─物部川口には、土木工事の資材砂利が無尽蔵。
写真は巨費を投じたその採取施設。

希望に燃ゆる成人達
祝福された七百二十三人

市では、去る一月十五日の成人の日に、市内で今年成人となった七百二十三人の門出を祝して、記念行事を後免野田小学校で行なった。

この日は、午前九時より記念式典を行ない、池川市長などのお祝のことばと、激励をうけ、それに応えて大篠の土居節代さんが代表にたち、

いま、一人前の大人となり希望に向って進む若者達の前には、幾多の難関と苦しみがある、私はそれを期待し、恐れてもいる。

人生は野に咲く花の如く輝いて咲くもの、散りゆくもの、私達社会にも類似したものはあっても、同じものはない、ここにあつまった私達も、それぞれ考えを異にしている。しかも今日を出発点として、一介の社会人となる。頑張なくてはと心に思う。

太古のむかしから、全ての人類は、「幸」を願った、私も「幸」を願う、どのように小さなことでも一つ一つに感謝をこめて、明日の幸を築き上げたい希望に燃えている。

先輩諸兄姉らの指導のもとに、苦しみに打ち勝つ力を養い社会に献身するとともに、若人の名にはじない生活と進歩とを願って止まない。

と力強く青年の誓をのべ、高知大学学長久保佐土美氏の講演を聞き、フォークダンスにたのしい一日を過ごした。

十二月三十一日付で
岡教育長辞職

さきに辞職願を提出し一時慰留されていた岡教育長はその後も入院加療中であり、その職を遂行できない健康状態にあるため、十二月三十一日付で辞職する意志を表明していたが、このほど受理された。

後任教育長は未定。

白木谷洞窟に期待
専門家迎え下調査

第二の竜河洞と期待する白木谷の石灰岩洞窟の調査は、さきに高知大学の甲藤助教授を迎えて行なわれた結果、同助教授も「有望と思う」と期待をかけた。

この調査は局部的なものであるため、さらに大規模の精密調査が必要とされ、調査費も予算化されなくてはならず市の負担も大きいがこの際結末をつけるべきだという声が多い。＝写真は洞内で調査中の甲藤助教授（左）右の機械はテレビ撮影機

来る人去る人

前市長 西村盛之

かえりみるに南国市発足以来初代市長として二ケ年有余、その職にあって市政を担当できましたことは、市民のみなさま方や、各種団体の有志諸賢らの絶大なご支援があったればこそで、その意に添うことなく任なかばでその職を去ることは、身の不徳のいたすところであり、誠に申訳ない次第です。

これからは、一市民として心を新らたにし、社会公共のため微力を尽してゆく心づもりでいます。今後ともおみすてなく、ご指導ごべんたつを賜りたく、お願い申上げごあいさつにかえます。

なお、南国市未来の育々発展を祈念します。

新市長 池川滋寿

輝けるとら年の新春をおよろこびいたします。

みなさんのご支援によって、この元旦から二代市長の職につきました。

なが年農協にあって初めて地方行政にたづさわりますが、市の信用回復をまず第一にし、内外ともに誰れからも愛し、愛される市政を打ち樹てたいと考えています。

これがためには、市民の声を身近にきき、清く、明るい、和のある行政を行ない、赤字財政の解消とともに地場産業の育成、都市計画の樹立など名実かねそなえた田園都市として年々発展する南国市の基礎を築き上げたいと念じています。みなさんのご協力をお願いします。

出勤は自転車で
池川市長語る

池川市長は、四日初登庁した。翌五日は、午前八時前に早やくも出勤職員を驚ろかした。

当日は市内、県庁えのあいさつ廻りに明けて六日は、朝七時三十分より消防出初式に、高知東工業高校後援会に、午後から広報委員との対談、また出初式え逆戻りと就任当初から、席あたたまるいとまのない多忙の日を送っている。市長であるが、自宅から市庁までの通勤には、自転車とバスを利用している。

これからも市長車は公務以外の出勤の足には、絶対使用しないと朗らかに語った。

なお、出勤に使っている自転車は、日章農協職員から贈られたもの。

吉川孝雄氏ら
団員三十四人を表彰

市の消防出初式は、初午の六日午前八時から久礼田小学校で行なわれた。

当日は、十七分団三百五十人と、介良村消防団、協和農機の自警団も参加し、池川市長らの臨席のもと、服装、装備の点検、模範操法など、消防独得の競技を行うなど、吉川孝雄氏ら三十四名の優良団員の表彰などあり午後三時三十分出初式を閉じた。

消防競技では二年連続一位の介良村が、二位となり三連勝がはばまれた。

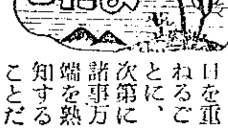
一位、岩分団、二位＝介良村消防団、三位＝野田分団、四位＝久礼田分団五位＝三和分団、

なお、表彰された人々は、次のとおり。

久礼田＝吉川孝雄、浜田章一、後免＝片岡金治、国則重雄、十市＝浜口義雄、日章＝高島田秀雄、武市哲弘末政茂、北村広作、上倉＝仁尾友之、竹内広喜、岩原義清、大篠＝窪田定、島崎和男、南部＝中橋稔、三和＝西村明、関田昭雄、中沢章、山岡益喜岡豊＝池添晴海、西岡茂、西原貢、稲生＝浜幸雄、松山継城、国府＝尾木誠郎、前浜＝連瀬健郎、藤田義久、野田＝隅田竜夫、東部＝高芝豊年、岩＝久保田裕基、瓶岩＝坂本真人、西部＝西村欽一郎

国府村史
出版さる

市内国府地区は、醍醐天皇の延長八年（九三〇）国府を置き、紀貫之を国司として派遣し土佐国を治めしめ、土佐文化の発祥の地である。従って遺跡、史跡が多く地元有志のあいだで、町村合併を契機に悠久一千有百年先人の遺した史実、古跡を偲び村史として後世に伝えるべく研究を続けて来たが、この程内容の充実した見ごとな村史の（右下へ）出版を見た、このことは郷土のみならず広く教育、文化、産業の発展に大きな寄与をもたらすものと思う。



一年の計は元旦にありという、この元旦にあやかったわけでもないだろうが、二代市長は元旦のその日から市長の職についた。縁起をかつぐわけではないが、これ以上幸先のよい出足はあるまい。▼就任当初から市長はなかなか多忙である。しかしその胸中のどこかに秘そとたくましい、市政再建の服案を去来させていることだろう。その秘策がどのように開らかれ、どのように施策してゆくかは、これからのこと、しかも政治は日々に新らたに生れている。清新の気を注入した愛の行政をやってもらいたい。▼地方自治は始めてであるという市長、だからわれわれもそこに期待している。知らないことを、はっきり知らないという勇気はなかなかできない。それをいうから、かざり気のない人柄には好感が持てる。▼しかしこれは日を重ねるごとに、次第に諸事万端を熟知することだろう。そのときにこそ、池川市政の真価を発揮するだろう。その日のはやくくることを、のぞむはせつ。▼年明けとともに衆目をあつめたのが、冬山の遭難である、誰れも遭難のために冬山に登っているのではあるまい、しかし毎日紙上にそれが大きく載っている。▼よく山を知り、己れを知って行動すべきでなかろうか、ただの遊び心ではあるまいにしても、無理な登山や、征服心にかられない、忍耐心を養ってもらいたい。これからという若い命を大切にするとともに、……▼市政を担当するものも、冬山の登山のように、忍耐と、慎重な行動、そして心にゆとりをもつことが大切だ。そこに山があるから登るのだ、で、なくそこに真実があるから登るのだの心でやってもらいたい。